

# 「友の会」+ 公益財団法人 金子国際文化交流財団の 奨学金活動について

財団事務局 奥沢文子



19年 金子財団のカンボジア訪問時 右端が奥沢氏

本財団は、CJFS（カンボジア日本友好学園）を卒業してカンボジアの大学で学んでいる学生に対するカンボジア奨学金事業と日本に留学して日本の大学で学んでいるアジアの学生に対する留学生奨学金給付事業の2本立ての事業を行っております。

カンボジア奨学金事業は開始後まだ4年しか経過しておりませんが、開始に当たっては「友の会」の奨学金制度の運営をそっくり真似しました。

カンボジア奨学生に対しては毎年5人、1人あたり年額5万円を4年間支給します。4年目を迎えた令和2年度の奨学生総数は、20人に達しました。

奨学生とは奨学金受取確認時、4月のクメール正月時、学年終了後の成績証明提出時の年に3回コミュニケーションを取っておりますが、英語によるメールだけではなかなか彼らの状況はつかめきれません。「友の会ニュースレター」の情報はこの隙間を埋めてくれるので大変貴重で有難いと思っております。

財団としては、20人の奨学生がどの程度優秀なのかが気になります。そこで、インターネットでカンボジアの大学のランキングを調べたところ、ランキング1位の王立プノンペン大学に7人、2位の王立カンボジア工科大学に1人、3位のパナストラ大学に1人、15位のノートン大学に4人、20位の国立マネジメント大学に1人います。トップ3の大学に20人のうち9人も進学しています。日本で言えば東京大学、京都大学、一橋大学レベルでしょうが、優秀な学生が多いことに感心するとともに財団としても嬉しくなっております。トップ3ではありませんが、奨学金1期生のヤウソワナリット君は国立ヘルスサイエンス大学医学部に通っています。彼には、4年間だけでなく卒業迄の正規の年限は奨学金で応援したいと考えております。立派な医師になってくれること

を期待しております。

他にも嬉しいことがあります。昨秋、奨学金2期生の日本語を専攻しているオンボンロク君が英語ではなく日本語でメールをくれました。感動しました。

ただ、頭の痛いこともあります。年に3回のコミュニケーションを取るようになっていますが、期日に自発的にメールしてくれる学生は多くありません。毎回、催促メールを送っていますが、一回の催促ではすまない学生も多々おります。何度も催促してもなしのつぶてで、最終的にはコンボン氏の手を煩わせて漸くメールを送ってくる学生もおります。こういう学生には援助する意欲がなくなってしまいます。

コンボン氏は学生達1人1人の色々な事情を理解してくれていて、こちらからの問い合わせにいつも真摯に早急に対応してくださっていることに感謝しております。

このコロナ禍の中、カンボジアの大学でもリモート授業を行っていたようです。奨学生にネット環境について質問したところ、45ドルのWi-FiルーターのほかにSIMカードを使ってもランニングコストが毎月10ドルくらい必要だそうです。この費用が工面できない学生もいるようです。昨秋、ネット環境を整えられない学生が休学すると言ってきました。彼の住む村ではネットに接続できないのだそうです。復学したら奨学金を再開することになっていますが、とても残念です。日本に比べて厳しい勉学環境にあることを実感しました。日本は恵まれていると感じました。

昨年も財団役員、評議員がカンボジアへ出張し学生達と面談する予定でしたが、コロナ禍で実現できませんでした。状況が許せば2021年は実現したいと思います。